

## 第17回全国登山研究会 愛知集会2018, 11/23~24 レポート

出席:高橋、瀬下

「誰もが登山できる喜びを広げ 登山文化と労働運動を次世代に継承し発展させよう！」を掲げ、目的として労山は、登山・ハイキングのすばらしさを多くの人々に健康的で文化的なスポーツ レクリエーション として普及・発展をめざし 運動を行ってきました。

今回2002年約24,000をピークに現在は19,000の会員数です。もう1度原点に帰り労山の意義(趣意書)の学習会についての論議が話題になって、全国の都道府県の連盟会運営の代表者ら180名が参加しました。

- \* 登山仲間作りの組織拡大・会員の強化
- \* 遭難事故のない登山技術、と登山文化の継承
- \* 登山者の後継者育成と若い層の取り組み

取り組みなどレポートを提出した地方連盟を实践と成果での論議から開始された。

\* 北海道では地域柄スノーシューを中心に「山菜狩りからヒマラヤまで」幅を広げ若者20代~40代が中心で2007/9名でスタートし現在147名ほどでの会員数になり本年、6000mヒマラヤに遠征が実現しました。しかしどの山岳会を考えても同じでリーダー不足です。

\* 京都府連はハイキング講座 初級 中級者向けの登山学校でレベルアップをし50周年で1,000名を達成し新たに60周年には1,500名目標を掲げた。\* 岡山倉敷ハイキングクラブこの10年間で80名から250名に会員数が増加したが、成果としてハイキングスクール(ABCが教材)そして次のステップとしてリーダー育成セカンドステップ講座でリーダー育成等を行う、さらに平和運動などが成功した等の実践活動報告でしたが主な連盟の動きでした。



次に分科会で会場を移し少人数での討論会になり各会の取り組み等の意見交換で会員が増えないむしろ減少気味 後継者不足 若者対策 組織強化 労山の将来などが討論会の中心でした。

\* 奈良県連からハイキングクラブの様子、創立42年現在 111名平均年齢63歳男女半々

会の運営は非常に細かく専門部が13部門例会、講座が102回で山行は4つのランクがあり、102回の山行があり延べ参加数1015名、それでも拡大数は横ばいです。しかし体験ハイキング、HPなどで増加傾向にあると考えている地元愛知県連からはHPの刷新など取り組みと登山講座などで減少を食い止める。さらに登山運動の理念の趣意書について説明をしている会もある…など各地方連盟が創意工夫しながら組織の充実(拡大)を目指しているなど、この集會に参加してよくわかりました。

**我が埼玉県連も全国の縮図だと思いました。減少傾向をどう食い止めるか、他人事ではなく理事長を先頭に各理事、ブロック、各会派の一人一人が組織拡大に真剣に取り組む必要があるのではないか。**最後に大沢全国理事(実行委員長)は登山文化が減少すると仲間(発展)が減少すると全国の財政も経費を削減しなければならないと言われた。

講師:小松 由佳氏 36歳女性 登山家・写真家シリア人と結婚後、6ヶ月の子供と八王子住む秋田県生まれで子供の時から山に囲まれ山育ちで高校時代から山岳部で開眼、高卒後、東海大学入学後、本格的登山部に当時女性は彼女一人(半端ものでした)4年で主将になり海外登山に参加。2004年そして日本人女性初の8611mのk2を苦難と戦いながら現地で2ヶ月間の訓練最後の登頂は6人のうち彼女と2人だけでした。生きて帰るために下山は死ぬ思いで生還した。その後ポーターさん(シリア人)の男性と結婚し、シリアの内戦取材し続けてカメラマンと登山家として経験を生かし、登山での活躍中に現在至る。 .....